

編 集 後 記

和文誌編集委員会における最大の課題は、日本小児循環器学会雑誌への投稿数を増やすことだと認識しています。私自身も耳が痛い話です。年齢とともに本務の役割が増え、1日24時間は変わらないのであれば、何が削られるかと言いますと、論文を執筆する時間、研究に従事する時間です。看護学教育に携わる私は、看護学部の学生、看護学研究科の大学院生に研究指導をしながら、自身の研究が遅々として進まないことを反省する日々です。同時に、次代の研究者を育成することは私たちに課せられた大きな役割であり、日々、その実現に近づいているのだという実感もあります。そんな毎日ですが、最近、慢性疾患をもつお子様のご家族から、「こういう研究に取り組んでくれている人がいて嬉しい」との言葉をいただきました。なんのために研究をするのか？論文を執筆するのか？それは、病気をもしながら頑張っている子どもたちとそのご家族の力になれるかも知れないから……、この研究ひとつで何かが変わるわけではないけれど、何かが変わるきっかけになるかも知れないから……。若かりし頃の純真(?)な気持ちを思い出し、ペースは上がらないけれど、もうひと頑張りしようと思うこの頃です。

(仁尾かおり)